

## 第4回

# コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会 2019

開催日時：2019年（令和元年）11月13日（水）

13:00（開場）

開会 13:30～ 終了予定 16:50

会 場：食糧会館 中央区日本橋小伝馬町 15-15 会議室

（5階 A/B 会議室） 定員：70名

対 象：関係官公庁（農林水産省、自治体など）、

コメ生産者/流通業者、畜產生産者/流通業者、農業団体、

飼料製造/販売業者、物流業者、消費者団体、学生、

研究・教育関係者、報道関係者 等



主 催 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

# 飼料用米の位置づけと今後の展開方向

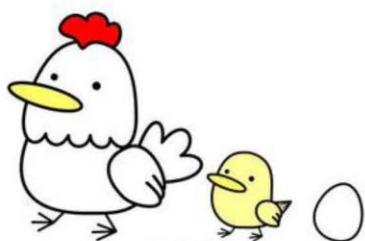
## ～消費(者)の側面から～

一般社団法人 農業開発研修センター  
山野 薫

1

### 報告の内容とねらい

- 飼料用米を給与して生産した畜産物について
  - ① 流通・販売形態とその様子を確認する
  - ② 消費者がどのような特徴を重視して購入しているかを鶏卵を例に紹介する
  - ③ 今後の普及のために必要なことを消費(者)の側面から考察する



2

## 飼料用米の給与と畜産物の販売

配合飼料メーカーにおける飼料用米の畜種別供給量

畜種	肉牛	乳牛	養豚	採卵鶏	ブロイラー	合計
30年度使用量 (トン)	3万	3万	22万	20万	24万	74万
割合 (%)	4.3	4.6	30.1	27.8	33.2	100

出所：農林水産省（2019）

- ・輸入トウモロコシの代替とするだけでなく、畜産物の高付加価値化を図る取り組みも見られる

2019年6月現在 **39道府県90事例** (出所：農林水産省（2019）)

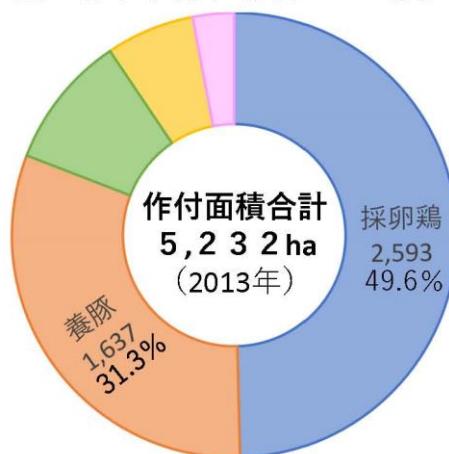
- ・畜産物の消費者への販売は、**生協**が他の流通業者に先駆けて行ってきた

3

## 生協における飼料用米の取り組み

- ・生協で取り扱ってきた理由
  - ① 安定的な販路の確保
  - ② 一般的な流通ルートへの出荷量の確保が難しい
    - 畜産物の生産量が飼料用米の確保量に左右されることも
  - ③ 生協産直の考え方との共通項（産直3原則、産直5基準）
    - 生産者との自立・対等を基礎としたパートナーシップの確立
    - 持続可能な生産と、環境に配慮した事業の推進

生協で利用される飼料用米・稻の作付面積（畜種別内訳）



出所：日本生活協同組合連合会（2015）

4

# 生協産直の考え方

## 【産直三原則】

- ・「生協産直」に求められる3つの条件
  1. 生産地と生産者が明確であること
  2. 栽培、肥育方法が明確であること
  3. 組合員と生産者が交流できること

## 【生協産直基準】

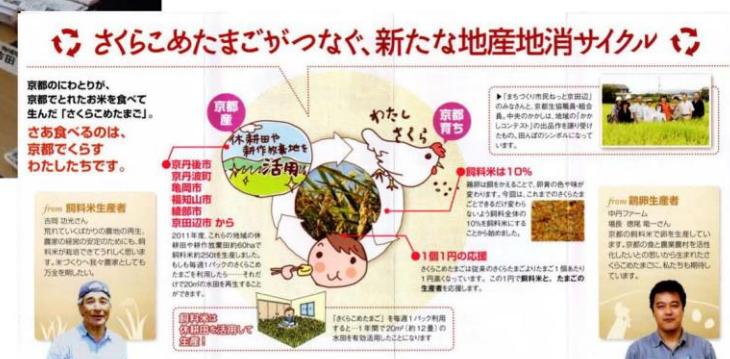
- ・日本生協連があるべき生協産直のあり方として提唱
  - ① 組合員の要求・要望を基本に、多面的な組合員参加を推進する
  - ② 生産地、生産者、生産・流通方法を明確にする
  - ③ 記録・点検・検査による検証システムを確立する
  - ④ 生産者との自立・対等を基礎としたパートナーシップを確立する
  - ⑤ 持続可能な生産と、環境に配慮した事業を推進する

# 京都生活協同組合での販売例

- ・商品名「さくらこめたまご」（鶏種「さくら」を使用）
- ・元々「さくら卵」を産直商品として供給
  - 府内の同じ生産者が飼料用米を10%配合して生産
  - 「さくらこめたまご」と並行して販売
- ・組合員への提供情報
  - ①飼料米生産、鶏卵生産、消費のすべてを京都府内で完結
  - ②飼料米は府内の耕作放棄地・休耕田で生産
    - 毎週1パック1年間利用すれば、12畳分の水田保全に貢献
  - ③卵1個につき1円の応援金を上乗せして販売
    - 稻作農家と養鶏農家に直接支払い、飼料用米の運送保管費用などに充当

## 京都生協における普及

- チラシの配布の他、学習会（3人以上で開催可能）を頻繁に実施
- 昨年度（2017年11月～2018年10月）集まった応援金は379万円



## 畜産物への組合員の評価

- 「さくらこめたまご」購入者へのアンケート調査  
2011年11月実施 回収数105部（回収率26.3%）
- 「さくらこめたまご」の24の特徴について、購入時に重視する程度を5段階評価
  - 府内農業の振興・支援につながる（91.8%）
  - 生協のおすすめ品である（91.7%）
  - 採卵日が新しい（83.3%）
  - 養鶏農家・米農家の支援につながる（83.1%）
  - 耕作放棄地や休耕田の減少に貢献できる（81.7%）
- 提供した情報が、地域農業への支援の意識と相まって理解に至っている（詳細は山野（2017）を参照）
- 応援金に対しても肯定的な意見が多い

## 生活協同組合コープしがでの販売例

- ・商品名「米育ちさくらたまご」（鶏種「さくら」を使用）
- ・元々「さくらたまご」を産直商品として供給
  - －県内の同じ生産者が飼料用米を10%配合して生産
  - －「米育ちさくらたまご」へ入れ替え
- ・組合員への提供情報（全5項目より抜粋）
  - ①耕作放棄地や休耕田で生産した県内産の飼料用米など、20種類ほどの材料による自家配合飼料を使用
  - ②飼料米の田んぼでは、鶏糞を肥料として使用し、地域内での循環型農業を目指す
  - ③飼料自給率を高めることは食の安全・安心につながり、飼料の長距離輸送の軽減はCO2削減など環境にやさしい

など全5項目

8

## コープしがにおける普及

- ・チラシの配布や配送担当者による口頭説明などを実施
- ・イベント等への生産者の参加も多い



9

## 畜産物への組合員の評価

- ・「米育ちさくらたまご」購入者へのアンケート調査  
2011年12月実施 回収数285部（回収率68.0%）
- ・「米育ちさくらたまご」の24の特徴について、購入時に重視する程度を5段階評価
  - ① 採卵日が新しい（91.5%）
  - ② 味がおいしい（90.7%）
  - ③ 割ったときの見栄え、つやがよい（87.5%）
  - ④ えさに関する情報を示している（83.7%）
  - ⑤ 購入しやすい（81.0%）
- ・提供情報が購入時に重視されていない
- ・飼料用米を利用する意義が評価に結び付いておらず、本質的な理解に至っているわけではない（詳細は山野（2017）を参照）

10

## 今後の普及に向けて

- ・提供情報によって、購入時の意識や飼料用米の利用意義への理解度は異なる
  - －京都生協の場合「自分たちの地域の問題を、自分たちの食を通して、自分たちで支える」意識の醸成に成功
  - －現行品への評価や位置付け  
消費者・購入者の特徴  
飼料用米を給与することの価値をどのように打ち出すか
  - －畜種が変われば、訴求ポイントも変わる
- ・生協を通じた流通からの脱却と一般化
  - －味、見た目などによる差別化とブランド化
  - －畜産物生産をとりまく環境・状況の周知

11

## 参考資料・文献

- ・農林水産省（2019）「飼料用米の推進について」
- ・日本生活協同組合連合会（2015）「全国生協産直レポート2015」
- ・山野 薫（2017）「飼料米給与鶏卵の商品属性に対する購入者の認識－「社会貢献要素」を中心に」『農業経営研究』第55巻第3号、pp.1-13

12

### MEMO



## 第4回 コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会2019資料

編集作成：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

作成担当：理事・事務局長 若狭良治

作成月日：2019年11月13日（水）会場配布

URL : <http://www.j-fra.or.jp/>

お問い合わせ先：postmaster@j-fra.or.jp

非売品：意見交換会終了後、ホームページからダウンロードできます。

# 第6回（通算13回）飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

令和元年度

（第4回）飼料用米多収日本一表彰式

（第3回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式

（第6回）

～飼料用米普及のためのシンポジウム2020～



開催月日：2020年3月18日（水）

開催時間：開場 10:30 開会 11:00 ~17:00

シンポジウム一部 11:00 ~ 12:00

資料展示・試食会 12:00 ~ 12:50

表彰式 13:00 ~ 14:20

シンポジウム二部 14:40 ~ 17:00

会 場：東京大学・弥生講堂（シンポジウム・表彰式）、ロビー（資料展示）、会議室（試食会）

受付開始：2020年1月上旬

受付窓口：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

メールアドレス [symposium20200318@j-fra.or.jp](mailto:symposium20200318@j-fra.or.jp) （2020年1月初旬に設定します）

主催 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

後援 （申請中）農林水産省（昨年実績）

飼料用米多収日本一表彰式 共同開催 一般社団法人 日本飼料用米振興協会／農林水産省

飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式 主催 一般社団法人 日本養豚協会 後援 農林水産省